

初年次教育の課題—大学学習法の実践を通して

新潟大学大学医歯学総合研究科 大島 勇人

それでは歯学部の新年次教育について話をさせていただきます。私は歯学部の大島です。よろしくお願いします。

歯学部には本年度、口腔生命福祉学科が設置されましたが、歯学部では歯学科40名、口腔生命福祉学科20名を一緒に新年次教育を行っています。

内容としては、早期臨床実習と歯学スタディ・スキルズという2本立てで新年次教育を考えています。

早期臨床実習におきましては、まず自分の将来像というものを知ってもらうことが趣旨の1つで、もう1つは歯学部には医者になりたかったけど歯学部に入學したという学生もいて、そういう学生には歯医者というものがどういうものかということ知ってもらう、自分に向いていないと思ったら早めに針路変更をしてもらうという意味合いもあります。

歯学スタディ・スキルズ、大学学習法の方ですが、ここではパーソナルコンピュータの基本操作を代表的なソフト、ワード、エクセル、パワーポイントを用いて、操作方法を学びながらレポート作成方法を学習することが目的です。そしてその学習を通して問題解決に必要な情報の検索方法を学び、最後はプレゼンテーションというかたちで成果発表をする能力の涵養を目指しております。

本日は早期臨床実習については簡単に触れさせていただきますと思いますが、この実習では学生を3グループに分けて、患者役実習、治療見学実習、患者付き添い実習を行っています。

歯学科6年生は総合診療室というところで臨床実習をしているのですが、患者役実習というのは、総合診療室で患者と介助という役割で、実際に治療を受けることを経験してもらいます。スライドはブラッシング指導をしているところです。

本日の歯学部の資料につきましては、35頁目に1枚でまとめてあります。そして36頁以降の3枚で実際の内容を細かく書いてありますので、時間の都合上、細かく説明できないので、資料も合わせてご覧ください。

平成13年度より歯学スタディスキルズを実施しております。到達目標としてあげているのは、ここに示している4点です。

まずレポートの作成の流れ、作成上の注意点を説明できるということ。2番目はワープロで簡単な文章作

成ができ、電子メールのやり取りができる。3番目としてインターネットを介して、必要な情報を検索することができる。そして、コンピュータを用いてプレゼンテーションができるということなのですが、実際受講した学生は最終的には、かなり高いレベルまで到達することがわかりました。

このスライドが講義内容で、ここに示してあるように盛り沢山です。これらの項目は学生が勉強する上で必要というよりも、学生が卒業した後に必要なものをすべて学習するというのが、この歯学スタディ・スキルズの目標になっております。

最後には、6つのグループに分けて、グループ内発表、討議、全体発表を行っています。

まず最初にはガイダンスをやって、この歯学スタディスキルズの目的を説明いたします。私たちが教育目標にあげていることをここで自覚してもらう、医療を実践できる能力を養うことになっております。

1番目に歯学スタディスキルズの基本コンセプトと書いてありますが、このように収集、分析、考察、発表ができるというところまで到達する。teacher centeredから、student centeredと、将来にわたって自分で勉強できる能力を教授することが目的になっております。

その骨格となるのが、レポートの書き方で3回かけて行っております。レポートと論文はどう違うのか、などレポートの書き方を学びます。

そして、今年はテーマとして6つキーワードをあげました。今年度は60名ですので、10名ずつ6つのグループに分け、少子高齢化、食品の安全性、医療事故、年金制度、EBMとNBM、再生医工学という6つのテーマをグループに選んでもらいました。この大きいカテゴリーの中で学生が自分の興味を持ったテーマを勉強して、それをレポートにまとめるということを行っています。

実施にあたっては、学生5名あたり1名のTAを配置しておりますので、これだけ盛り沢山の内容の濃いものも何とかクリアできていることになっております。

実際にまとめたものはレポートとして、ワープロで体裁を整えたかたちで完成させますが、最後にはプレゼンテーションを行います。自分の勉強した課題を、聴衆に向かってきちんとアピールできる、自分のメッ

セージをきちんと伝えることができるかというところまでの能力を養っております。

学生はグループ内の10名のところで、2回プレゼンテーションの練習をして、その中で優秀な学生が最後の全体発表でプレゼンテーションを行っています。

時間がないので1枚ずつしか出せないのですが、これは遺伝子組み換え作物の安全性というタイトルで書いた人のものです。これは、年金の一元化について。これは歯科医療におけるNBMについての発表の一部ですが、このような内容のものを発表しております。

最後に授業評価アンケートの結果なのですが、これは歯学部で行っているフォーマットで、授業評価アンケートは学生の勉強に対する取り組みと、いわゆる教員の授業方法について、2つに分けて評価を行っています。そしてA～Eということで、Aが5点でEが1点という点数で評価していますので、点数が5に近いほど良いということなのですが、これは学生の取り組みが3.88ということで、専門科目によっては4.5位いくものがあるので、平均的な評価になっております。

こちらがいわゆる教員側を評価している部分なのですが、これについては3.81ということで、これも平均的です。そんなに高くないのですが、これはオムニ

バス形式ということで、いろいろな教員で構成されているということと、内容が高度すぎるというところで、この評価になっていると思いますが、今後これを向上したいと考えています。

これは具体的な学生の個人的な意見なのですが、同じことをやっても簡単過ぎるという学生と、難し過ぎるという学生が2通りいて、歯学スタディ・スキルズはいたし方ないというところがあります。そういう意味では学生の声は聞いて、翌年度にはフィードバックしております。

今後の課題ですが、4年間実施して感じたことは、年々学生のスキルがレベルアップしていることで、それに応じて内容も変えていかなければいけないということを感じています。

それから今、歯学科の方では5年次にPBL教育を導入していますし、口腔生命福祉学科では2年次から専門教育をPBL教育を中心にやることが決まっていますので、初年次にPBLを導入した方が良いと考えております。

最後はお願いですが、5名当たり一人のTAを配置していただくことを希望して、歯学部の発表を終えさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

『初年次教育の課題—大学学習法の実践を通して』

(1) 歯学部初年次教育のとらえ方

- * 歯科医学学習のスタートに臨んで、医療人としての道を歩み始めたことを自覚する（専門科目：早期臨床実習Ⅰ）。
- * 歯学部への進路選択が自分の適正に合っているのか再認識する機会を与える（専門科目：早期臨床実習Ⅰ）
- * パーソナルコンピュータの基本操作を代表的なソフトを用いて演習方式にて学びながら、レポート作成方法を学習する（全学共通科目：歯学スタディ・スキルズ）。
- * 問題解決に必要な情報の検索方法を学び、与えられた課題に対してレポートを作成し、コンピュータを用いてレポート内容を発表する能力を養う（全学共通科目：歯学スタディ・スキルズ）。
- * 早期臨床実習Ⅰ：20名ずつ3グループに分かれ、「患者役実習」、「治療見学実習」、「患者付き添い実習」をそれぞれ4週（回）ずつ行い、最後には与えられた課題についてグループ討議・全体討議を行う。

(2) 現在にいたる歯学部の大学学習法の実施状況

- * 平成13年度より実施しており、平成16年度は4回目
- * 到達目標：①レポート作成の流れ，作成上の注意点を説明できる。②ワープロで簡単な文章作成ができ，電子メールのやりとりができる。③インターネットを介して必要な情報を検索することができる。④コンピュータを用いてプレゼンテーションができる。
- * 実施内容：下記で示す。

(3) 歯学部初年次教育の今後の展望と大学学習法の今後の課題

- * 入学時の学生のコンピュータ・ネットワークのスキルが毎年向上しており，今後学習内容を見直す必要がある。
- * 教育方略としてのPBL（Problem Based Learning＝問題提起・問題解決型学習）を入学後早期に経験する必要がある。
- * 大学学習法に5名当たり一人のTAは必須である。TAの充足が教育内容に大きく影響する。

	講義内容	担当教員名
1	<p>ガイダンス：</p> <ul style="list-style-type: none"> *歯学スタディ・スキルズの講義・演習概要を説明する。 *目的として、①コミュニケーション能力のすぐれた医療人の育成、②問題発見・解決型の人材の育成、③生涯にわたって学ぶ習慣を身に付け、根拠に立脚した医療を実践できる医療人の育成、の3点をあげている。 *コンピュータの基本操作、電子メール、情報収集・管理、ワード、エクセル、パワーポイントを指導し、プレゼンテーション能力についても育成する。 *歯学スタディ・スキルズの基本コンセプトは、①収集・分析・考察・発表(taxonomyの向上)、②teacher-centered→student-centered、③将来にわたり活用できるスキルの教授 	小野 和宏
2	<p>コンピュータの基本操作</p> <ul style="list-style-type: none"> *具体的なコンピュータ操作を行う。「コンピュータ・ガイダンス」と「学務情報システム利用説明」が終了していたが、Webメールを含めてコンピュータの扱いを復習し、下記の課題を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ●キーボードの基本操作 <ul style="list-style-type: none"> メモ帳を起動し、IMEを利用して日本語を入力する。 ●ファイルの保存方法 <ul style="list-style-type: none"> メモ帳で作成した文章をネットワークドライブに保存する。実施済みの「学務情報システム利用説明」の感想を文章にする。 ●Webメールの利用法 <ul style="list-style-type: none"> Webメールの本文にメモ帳で作成した文章を貼り付けて、大島宛に送付する。 	大島 勇人
3	<p>レポートの書き方①</p> <ul style="list-style-type: none"> *レポートの書き方を解説後、演習形式でレポートの書き方を身に付ける。 *レポートと論文の違いを理解する。 *レポート作成の基本的心得を習得する。 *学習レポートと研究レポートの違いを理解する。 *事実と意見の違いを理解する。 *事実と意見の記述の注意点を理解する。 	小野 和宏
4	<p>電子メールの使い方①</p> <ul style="list-style-type: none"> *電子メールのエチケットを学ぶ。 *ウィルスとワームについて理解する。 *電子メールソフトの設定について理解する。 *下記の課題を演習形式で実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ●1. AL-Mailを用いた電子メール演習とネチケットの理解 <ul style="list-style-type: none"> AL-Mailを用いた電子メールの送受信についての演習を行うと共に、ネチケットを理解する。 ●2. メモ帳を使った文章の作成 <ul style="list-style-type: none"> メモ帳を使って、合宿研修の際に行ったPBLの感想文を作成する。 ●3. 添付ファイルの仕様とネチケット・メールの送信 <ul style="list-style-type: none"> メモ帳で作った文章を添付ファイルで送る演習とネチケットにそったメールで本日のスタディ・スキルズ(4限)の感想を電子メールで送る演習を行う。 <p>電子メールの使い方②</p> <ul style="list-style-type: none"> *ネチケットにそったメールの作成を演習形式で習得する。 <p>【ネチケットにそったメールの作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下のネチケットをクリアする必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ●1. Subject(題名)を付ける 	大島 勇人

	<ul style="list-style-type: none"> ●2. 一行半角60文字（漢字だと30字）程で改行する ●3. 「半角カタカナ」、「機種依存文字」は使わない ●4. 引用は短めに 	
5 6	<p>ワードの基本操作</p> <ul style="list-style-type: none"> *ワードの基本操作を習得する。 *ヘッダー・フッター，箇条書き，文字の修飾，レイアウト，段落の取り扱い，ファイルの保存等について習得する。 	田邊 義浩
7	<p>コンピュータ・ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> *①デジタルとは何か，②コンピュータとインターネットの歴史について理解する，③インターネットの仕組み，④著作権について理解する。 *医療における情報について理解する。 	鈴木 一郎
8	<p>情報収集管理論</p> <ul style="list-style-type: none"> *情報の収集方法について習得する。 *収集した情報の管理方法について習得する。 	朔 敬
9	<p>レポートの書き方②</p> <ul style="list-style-type: none"> *「少子高齢化」，「食品の安全性」，「医療事故」，「年金制度」，「EBMとNBM」，「再生医工学」の6つのキーワードを選定し，レポートの課題とした。 *学生5名あたり1名のTAを配置し，学生がインターネットや図書館の書籍を用いて具体的なテーマの絞り込みの手助けをする。 	小野 和宏
10	<p>旭町分館の利用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> *図書館（旭町分館）の利用方法を習得する。 	分館 職員
11	<p>インターネット・セキュリティ（①，②）</p> <ul style="list-style-type: none"> *Webとメールにおけるウイルス対策を習得する。 *インターネットにおける情報漏えいについて理解する。 *上記の到達目標の達成度を下記の課題で評価する。 ●課題1 ウイルスや情報漏えいから自分を守るためにはどのような対策を施さなければならないかを，電子メールとウェブ・ブラウザに分けて箇条書きに記せ。 ●課題2 歯学スタディ・スキルズ（今回の）感想を記せ。 	大島 勇人
12	<p>情報検索の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> *図書館（旭町分館）で行える情報検索方法を習得する。 	分館 職員
13 14	<p>簡単なWebページ作成，画像の取り扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> *簡単なWebページ作成法を習得する。 *コンピュータにおける画像の概念を理解すると共に，画像の取扱方法を習得する。 	鈴木 一郎
15	<p>レポートの書き方③</p> <ul style="list-style-type: none"> *資料を収集して，各自のテーマのレポートを完成させる。 	小野 和宏
16	<p>ワープロ演習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> *「レポートの書き方」の完成レポートの完成度を向上させる。 	田邊 義浩
17	<p>よいプレゼンテーションとは</p> <ul style="list-style-type: none"> *プレゼンテーションとは何か？良いプレゼンテーションとは何かを学ぶ。 	鈴木 一郎
18	<p>プレゼンテーションの概要作成</p> <ul style="list-style-type: none"> *プレゼンテーションの具体的な概要作成を習得する。 *プレゼンテーションの骨組み（序論・本論・結論）を構築する。 *メッセージの計画化を理解する。 	大島 勇人

資料

	<ul style="list-style-type: none"> * 「レポートの書き方」の完成レポートを用いて、下記の演習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> • 10～15分のプレゼンを想定して、タイトル、参考文献を入れて12枚のスライドを作成する • ワープロ課題レポートの内容を用いる • Microsoft PowerPoint のアウトラインを用いて、スライドの構成を考える • 序論・本論・結論の三部構成とする • タイトル1枚、序論1～2枚、本論7～8枚、結論1枚、参考文献1枚 パラグラフごとに1～2つのスライドを用いる • スライドごとの小見出しを考える • ファイル名は「学籍番号.ppt」とする 	
19	パワーポイントの基本操作	鈴木 一郎 山田 一尋
20	<ul style="list-style-type: none"> * パワーポイントの具体的な取扱方法について習得する。 * 魅力的なプレゼンテーションに必要なテクニックを習得する。 	
21	エクセルの基本操作	八木 稔
22	<ul style="list-style-type: none"> * 表Tableの作成：演習用のExcelのブックを利用して、分かりやすくレイアウトされた表を作成すると共に、表に基づいた図を作成する。 * データ処理を行うのに有用なデータの形と関数計算：どのようなデータの形（表としての形）がデータ処理に向いているかを学ぶ。データの並べ替え（ソート）を行う。関数（合計SUM、平均値AVERAGE、標準偏差STDEV）の使い方を学ぶ。 * 相関関係と図の作成：あるデータに基づいて、関数を使って相関係数と回帰係数を求める。データの分かりやすい散布図を描いて、相関関係を提示する。 	
23	プレゼンテーション作成	鈴木 一郎 山田 一尋
24	<ul style="list-style-type: none"> * 「レポートの書き方」の完成レポートを利用してプレゼンテーションファイルを作成する。 	
25	グループ内発表・討議	小野 和宏 大島 勇人 鈴木 一郎 山田 一尋 八木 稔 田邊 義浩
26	<ul style="list-style-type: none"> * グループに分け、全員が15分のプレゼンテーションを行い、効果的なプレゼンテーション方法を習得する。 	
27	<ul style="list-style-type: none"> * グループごとの担当教員とTAが学生のプレゼンテーションを評価する。 	
28		
29	全体発表、評価	
30	<ul style="list-style-type: none"> * 各グループの学生代表者がプレゼンテーションを行う。 * プレゼンテーションに対し、学生、教員、TAが議論・論評を行う。 	



第11回新潟大学全学FDの報告(歯学部)

2004/09/17

初年次教育の課題－ 大学学習法の実践を通して



歯学部 大島勇人



歯学部の初年次教育のとりえ方

歯科医学学習のスタートに臨んで、医療人としての道を歩み始めたことを自覚する(専門科目:早期臨床実習Ⅰ)。歯学部への進路選択が自分の適性に合っているのか再認識する機会を与える(専門科目:早期臨床実習Ⅰ)。

パーソナルコンピュータの基本操作を代表的なソフトを用いて演習方式にて学びながら、レポート作成方法を学習する(全学共通科目:歯学スタディ・スキルズ)。

問題解決に必要な情報の検索方法を学び、与えられた課題に対してレポートを作成し、コンピュータを用いてレポート内容を発表する能力を養う(全学共通科目:歯学スタディ・スキルズ)。

早期臨床実習Ⅰ

20名ずつ3グループに分かれ、「患者役実習」、「治療見学実習」、「患者付き添い実習」をそれぞれ4週(回)ずつ行い、最後には与えられた課題についてグループ討議・全体討議を行う。



現在にいたる歯学部の 大学学習法の実施状況



平成13年度より実施。平成16年度は4回目
到達目標(行動目標)

1. レポート作成の流れ、作成上の注意点を説明できる。
2. ワードで簡単な文章作成ができ、電子メールのやりとりができる。
3. インターネットを介して必要な情報を検索することができる。
4. コンピュータを用いてプレゼンテーションができる。

講義内容



ガイダンス(1回)
コンピュータの基本操作(1回)
レポートの書き方(3回)
電子メールの使い方(1回)
ワードの基本操作(2回)
コンピュータ・ネットワーク(1回)
情報収集管理論(1回)
旭町分館の利用方法(1回)
インターネット・セキュリティ(1回)
情報検索の仕方(1回)

簡単なWebページ作成、画像の取り扱い(2回)
ワープロ演習課題(1回)
よいプレゼンテーションとは(1回)
プレゼンテーションの概要作成(1回)
パワーポイントの基本操作(2回)
エクセルの基本操作(2回)
プレゼンテーション作成(2回)
グループ内発表・討議(4回)
全体発表(2回)

ガイダンス



歯学スタディ・スキルズの目的

1. コミュニケーション能力のすぐれた医療人の育成
2. 問題発見・解決型の人材の育成
3. 生涯にわたって学ぶ習慣を身に付け、根拠に立脚した医療を実践できる医療人の育成

コンピュータの基本操作、電子メール、情報収集・管理、ワード、エクセル、パワーポイントを指導し、プレゼンテーション能力についても育成する。

歯学スタディ・スキルズの基本コンセプト

1. 収集・分析・考察・発表(taxonomyの向上)
2. teacher-centered→student-centered
3. 将来にわたり活用できるスキルの教授

レポートの書き方①



レポートの書き方を解説後、演習形式でレポートの書き方を身に付ける。

レポートと論文の違いを理解する。

レポート作成の基本的心得を習得する。

学習レポートと研究レポートの違いを理解する。

事実と意見の違いを理解する。

事実と意見の記述の注意点を理解する。

レポートの書き方②



「少子高齢化」、「食品の安全性」、「医療事故」、「年金制度」、「EBMとNBM」、「再生医工学」の6つのキーワードを選定し、レポートの課題とした。

学生5名あたり1名のTAを配置し、学生がインターネットや図書館の書籍を用いて具体的なテーマの絞り込みの手助けをする。

プレゼンテーションの概要作成



プレゼンテーションの具体的な概要作成を習得する。
プレゼンテーションの骨組み(序論・本論・結論)を構築する。

メッセージの明確化。

「レポートの書き方」の完成レポートを用いて、下記の演習を行う。

10～15分のプレゼンを想定して、タイトル、参考文献を入れて12枚のスライドを作成する

ワープロ課題レポートの内容を用いる

序論・本論・結論の三部構成とする

学生の発表から(例1)

タイトル：遺伝子組み換え作物の安全性

結論

遺伝子組み換え作物が人体に及ぼす
影響は解明されていない！



1. 「不使用」表示の食品を探す
2. 「国産」の表示を選ぶ
3. 「有機」という表示の食品を選ぶ
4. 遺伝子組み換えが実用化されていない

食品を選ぶ

学生の発表から(例2)

タイトル：年金一元化について

スウェーデンの年金一元化

18. 5%の固定保険料

見なし掛け金制度

毎年行う見直し



給付と負担を各世代で一致させ、
世代間不公平をふせぐ

学生の発表から(例3)

タイトル：歯科保健におけるEBM

歯科保健の場面で必要なもの

医療者のコミュニケーション技術として、

1. 情報収集
2. 患者の感情への対応
3. 教育と動機付けの側面 が求められる。

医療者側が表情などで共感を表すと話しやすい
患者の話を記録し、自己評価することが大切！

授業評価アンケート結果(1)



設問 内容	a	b	c	d	e	点数
	全くそ う思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら かとい えな い	どちら かとい えばそ う思わ ない	全くそ う思わ ない	
	100%	90% 以上	80% 以上	2/3以 上	2/3未 満	
1 この授業にはどのくらい出席しましたか	41	4	0	0	0	4.91
2 この授業はもともと興味がありましたか	13	16	10	4	2	3.76
3 授業のために授業時間以外の学習(予習・復習を含む)をしましたか	19	11	9	4	2	3.91
4 この授業に意欲的に取り組みましたか	12	23	5	4	0	3.98
5 授業内容について質問や発言をしましたか	5	9	10	17	4	2.87
						3.68

授業評価アンケート結果(2)

6	授業の到達目標は明確でしたか	20	21	3	1	0	4.33
7	授業内容は良く理解できましたか	11	19	9	6	0	3.78
8	分かりやすく工夫が感じられましたか	8	22	9	4	2	3.67
9	授業時間は適切でしたか	5	13	18	9	0	3.31
10	授業内容のレベルは適切でしたか	5	12	15	13	0	3.20
11	教員の教える熱意が感じられましたか	9	23	11	2	0	3.87
12	授業での教材の使い方が効果的でしたか	10	16	16	3	0	3.73
13	教員の話し方は聞き取りやすかったですか	13	20	10	2	0	3.98
14	学生に質問や発言を促す工夫が感じ取れましたか	9	14	12	10	0	3.49
15	受講後、この科目に対する興味が増しましたか	13	16	11	4	1	3.80
16	この授業の受講後、歯科医学に対する興味が増しましたか	14	14	10	3	4	3.69

*6～16の平均(9.10は除く)

授業評価アンケート結果(3)



授業開始時点でのパソコンの技術に個人差があるので、全くパソコンに慣れていない人に対してもう少し細かく指導してほしいと感じた時がありました。

レポート作成までの時間が短すぎて苦労した。その後の授業に余裕がありすぎた分、余計にそう思った。課題の量が毎週均等になるように調整してほしい。

パソコンは初心者だったので、難しい言葉がわからず操作にもついていくのが大変でした。最終的にはパソコンが使えるようになったのでよかったと思います。

パソコンが苦手な人も授業時間内に課題が提出できるような時間配分をしてほしい。

教材を使うとか、もっとわかりやすくしてほしい。

TAの先生方の助けが大変大きなものだった気がする。自分で自分の意見をまとめる力もついた。

歯学部初年次教育の今後の展望と大学学習法の今後の課題

入学時の学生のコンピュータ・ネットワークのスキルが毎年向上しており、今後学習内容を見直す必要がある。

教育方略としてのPBL(Problem Based Learning=問題提起・問題解決型学習)を入学後早期に経験する必要がある。

大学学習法に5名あたり一人のTAは必須である。TAの充足率が教育内容に大きく影響する。

